

第215回政策課題勉強会 国土交通政策研究所 2018年9月5日

訪日外国人の出入国選択と 複数空港バンドリングの評価

東京工業大学 環境·社会理工学院 融合理工学系 教授 花岡伸也

研究協力者

首都大学東京 准教授 石倉智樹

京都大学 准教授 大西正光

東京工業大学 助教 川崎智也

運輸総合研究所 研究員 崔 善鏡

東京工業大学 博士課程 許 方舟

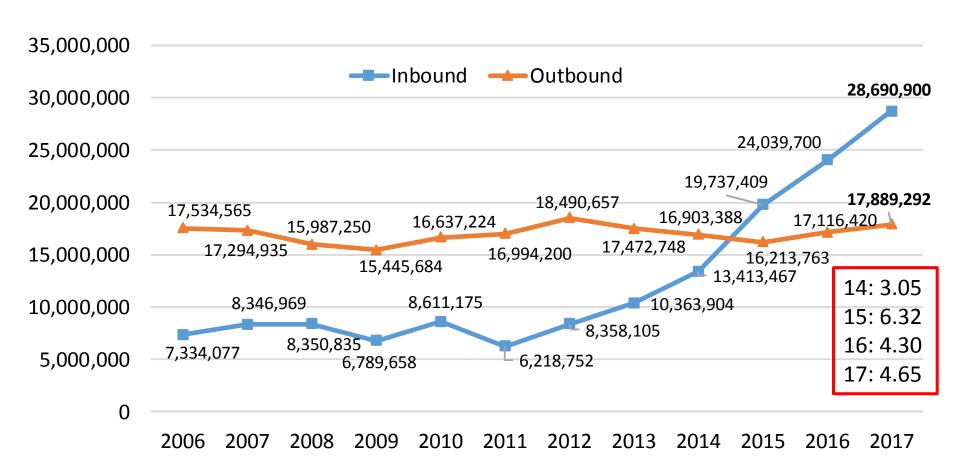
目次



- 1. はじめに
- 2. 訪日外国人の出入国空港選択とトリップチェーン
- 3.トリップチェーンを考慮した複数空港バンドリングの評価
- 4. 訪日外国人による消費特性の入国空港別国籍別比較分析



日本全体インバウンド・アウトバウンド数の推移



注:インバウンドは航空以外(クルーズ船等)を含む.

クルーズ船旅客数[千人] 2014年 416(3.1%); 2015年 1,116(5.6%); 2016年 1,992(8.3%); 2017年 2,533(8.8%)



訪日外国人の急増

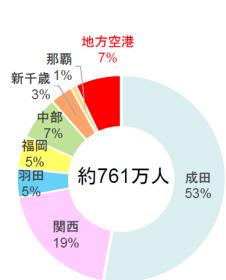
2016年:

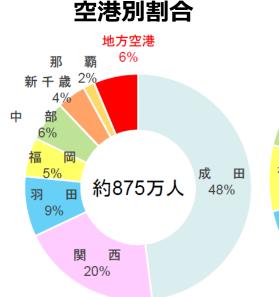
中国(637万, 26.5%) 韓国(509万, 21.2%) 台湾(417万, 17.3%) 香港(184万, 7.7%) 72.7%

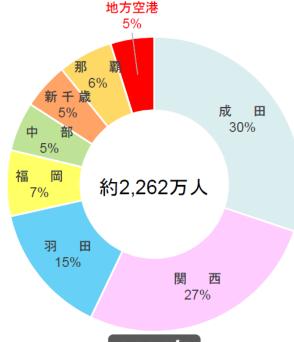
主要空港と地方空港のシェア

- · 首都圏空港(羽田·成田): 約45%
- 三大都市圏空港(首都圏+関空/中部): 約80%
- 主要7空港*(三大都市圏+新千歳/福岡/那覇): 約95%

※主要空港(Major): 成田空港,関西空港,羽田空港,福岡空港,中部空港,新千歳空港,那覇空港の7空港※地方空港(Local): その他の空港







2006年

2010年

2016年

出所:国土交通省資料

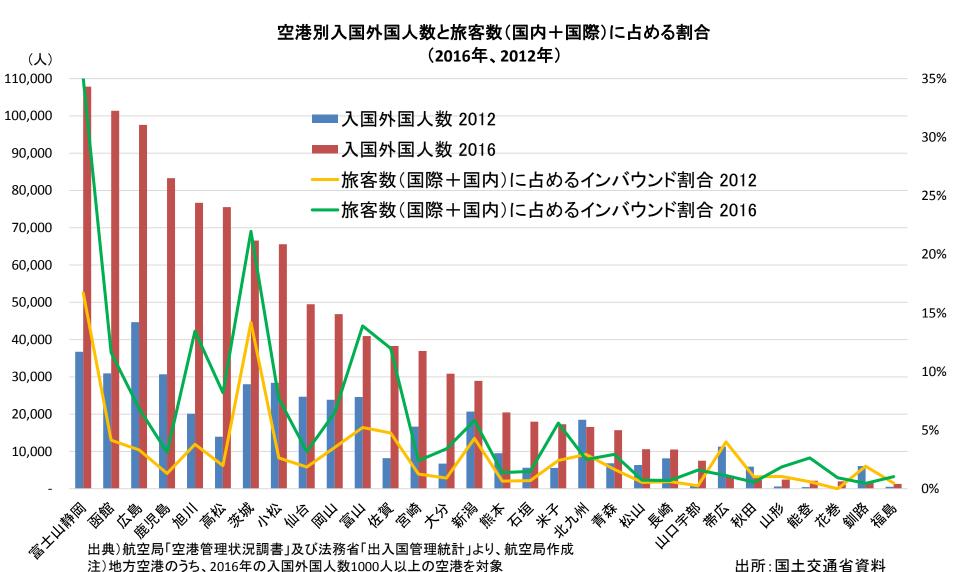
(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成(2016年12月分は速報値) ※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」と集計方法が異なる為一致しない。



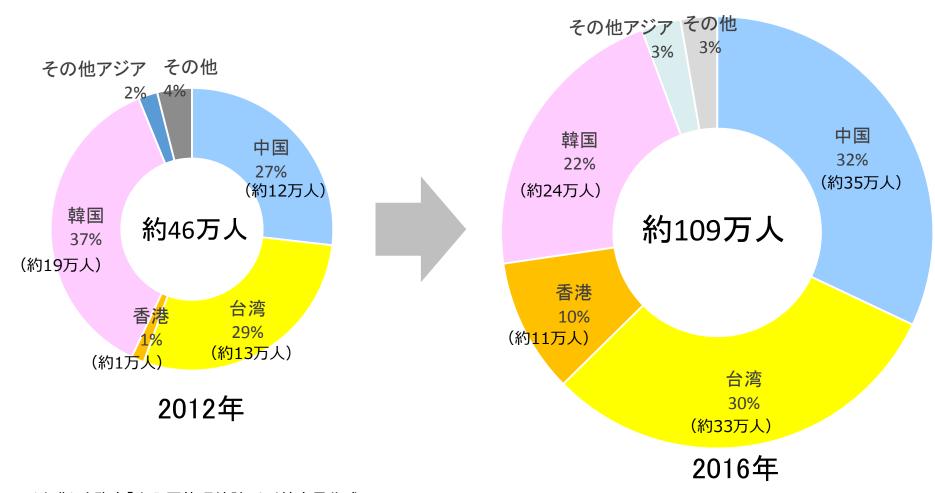
○各地方空港において、訪日外国人旅行者の存在感は拡大している。

注)インバウンド割合は異なる統計の組み合わせのため、便宜的な算出値にすぎない。

○訪日外国人旅行者割合は増加傾向にあるものの 1割程度未満にとどまる空港多い。



○地方空港は、東アジア4市場(中国、台湾、香港、韓国)からの外国人が**約95%**を占める。 ○近年は、韓国のシェアが低下し、香港のシェアが拡大している。



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成

※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。

出所:国土交通省資料



地方空港の入国外国人数(推移)

- 2012年から2015年の3年間で 約2.4倍増加
- 2016年は伸び率は横ばい。2017年は140万人以上。



地方空港の入国外国人数推移 (国土交通省資料)

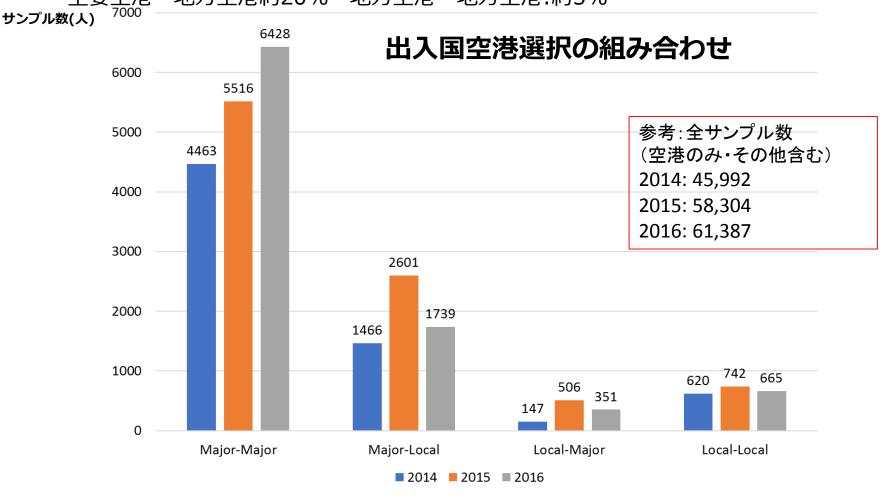
目的:地方空港のインバウンド需要創出のための基礎分析

- ①訪日外国人国内流動データ(FFデータ)を用いて, **入国空港と出国空港が異なる 訪日外国人の空港選択・トリップチェーンを分析**し, その特徴を踏まえ, 地方空 港の活用可能性を検討。
- ②北海道では道内7空港を民間事業者が一体的に運営する一括運営委託(バンドリング)によって民営化が実施される。地域内空港連携策として地方空港の航空需要創出を目標に、空港、航空会社、旅客の意思決定の相互作用をモデル化し、数値計算によって複数空港のバンドリングが与える影響を分析。
- ③日本全体の空港容量不足を放置すると,訪日外国人によってもたらされる経済効果が享受できない可能性。**訪日外国人の消費がもたらす経済効果の実態を把握**するため,新千歳,中部,福岡,那覇の各空港を対象に,中国,韓国,台湾,香港の国籍別入国空港別消費特性の比較分析。



出入国空港の選択をFF-Dataより分析: 異なるIn-Out空港の選択に着目

- ・ In-Out空港が異なる割合:′14:<u>14.6%</u>, '15:<u>16.1%</u>, '16:<u>14.9%</u>
- 主要空港一主要空港約60%
- 主要空港-地方空港約20%・地方空港-地方空港:約5%





出入国空港の異なる訪日外国人数(2014年)

	旭川	茨城	羽田	岡山	関西	宮崎	熊本	広島	高松	佐賀	鹿児島	秋田	小松	松山	新潟	新千歳	成田	青森	静岡	石垣	仙台	大分	中部	長崎	那覇	博多	函館	富山	福岡	米子	総計
旭川			1													9											188				198
茨城					1				36	1							1	Ţ	東京	署四	Z港									П	39
羽田		1			209		1	6	3				3	2		10	642	1	4	Į.	4		47		4			10	17	1	965
岡山																							2							\Box	2
関西		48	177	31		2	9	13	66	7			5	4		13	1157		25				128		9				53	\Box	1747
宮崎											55									• • • II	·								3		58
熊本						2	2										1		レナ、	ノル	,—,								2		4
広島			5		14				1					1			10												7		38
高松		1	1		6			7						8			1													Ш	24
佐賀																						9							1	Ш	10
鹿児島						85	<u> </u>																2	9					4	Ш	100
秋田																		4												Ш	4
小松					2																		2					3		Ш	7
松山				6					2														1							Ш	9
新潟					2	_															3									Ш	5
新千歳	81		24		24							1					61	24			1		1	2	2		70		2	Ш	293
成田		7	510		1413	1		9	2	3			1	4	6	21		2	69		7		140	1	2			2	44	ιI	2244
青森			1																		1									П	2
静岡					1				1								1						2						4		9
石垣																															0
仙台			5		3							3	1			3	7										18		1		41
大分										16																					16
中部			26		84								16		3	1	225		2		1							36	19	Ш	413
長崎																														Ш	0
那覇			4		11						2			1			18			3			1						6	-	46
博多			1													2	3												10	Ш	16
函館	160	- 1	海道	首 -												12														Ш	172
富山		-11																					11							Ш	13
福岡			12	3	29		22	3		32	10					3	52		19			5	12	3	3	13				Ш	221
米子																														Ш	0
総計	241	57	769	40	1799	90	32	38	111	59	67	4	26	20	9	74	2178	31	119	3	17	14	349	15	20	13	276	51	173	1	6696



出入国空港の異なる訪日外国人数(2015年)

	旭川	茨城	羽田	岡山	関西	宮崎	熊本	広島	高松	佐賀	鹿児島	秋田	小松	松山	新潟	新千歳	成田	青森	静岡	石垣	仙台	大分	中部	長崎	那覇	博多	函館	富山	福岡	米子	総計
旭川																33	1						1				180				215
茨城			2	3	26				2	1						1	3	5	東京	署空	港								1		39
羽田		5		1	436	3	1	13		3	1		8	2	3	7	868		11	l I	4		62	2	7		9		19		1465
岡山					4			1									2		6				3						1		17
関西		144	282			3		29	84	5	4		8	5	12	22	1488		258		14		162		11			11	120	1	2663
宮崎							12				78						ゴ -	— Л.	デン	-دال									5		95
熊本																						5							6		11
広島			7		5				86					1	1		5						2						3		110
高松		3			2			5						3									4								17
佐賀		13							5										3	1		21							4		46
鹿児島					1	128																							7		136
秋田																	1	2													3
小松			5		7										2		2		10				2								28
松山			1		3																		1						1		6
新潟			3		22								14			1	8						4						3		55
新千歳	82		19		23												50	3	<u>`</u>						1		256		3		440
成田		8	657	3	1460			18	7	4	2		4		10	25		6	73		13	1	172	6	15		7	12	55		2558
青森												4																			4
静岡			4		73			1					5				17						73						6		179
石垣																							2								2
仙台			8		5								1		1	2	5		1				1						1		25
大分							1			23														1					8		33
中部		26	44	15	154		1	3	36		3		21			2	145		83						3			6			546
長崎			2																										8		10
那覇			9		13				1	1							27		1					3				1	8		64
函館	118		1		2								2		Ш	70				Ш											195
富山			公海道	-	3			<u> </u>					2				5			Ш			8	-					1	_	20
福岡		1	」/呼促	- 1	54	27	5	12	2	18	24		2	1	1		82		40		3	16	16	40	2	7				2	381
米子			2																												2
総計	200	199	1073	23	2293	161	20	82	223	55	112	4	67	12	30	163	2711	11	489	0	34	43	513	52	39	7	452	30	264	3	9365



出入国空港の異なる訪日外国人数(2016年)

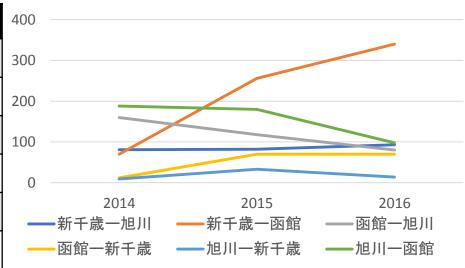
	旭川	茨城	羽田	岡山	関西	宮崎	熊本	広島	高松	佐賀	鹿児島	秋田	小松	松山	新潟	新千歳	成田	青森	静岡	石垣	仙台	大分	中部	長崎	那覇	函館	富山	福岡	米子北	(九州	総計
旭川		1	2													14	1	_	5 	異りた	*					98					116
茨城					16				8	4							3		マス!	蜀空				1	1			2			35
羽田		5		2	537	1		5	2		2		4	1	12	15	915	6	3 10		15		124		6	7	1	16	1		1686
岡山			1		2			4	4										19				1						3		34
関西		89	348	10		1		9	28	3			10	4	27	26	1246	3	488		15	3	207	4	10		1	83	23		2638
宮崎											142									デン	п _	L						8			151
熊本																			— <i>л</i>	ナン	ルー	-									0
広島			5		10				22								6											13	2		58
高松			2		5			15		4				4									4					1			35 48
佐賀		15														1						27						5			48
鹿児島						113	3																					10			123
秋田					1																										1
小松			2		5										1		4						7				1	1			21
松山			1		4				3														1								9
新潟			3	_	12	_							9				10				1										35
新千歳	93	3		_	26	_											33						1		1	340		3			511
成田		8			1475			12	5		1		5		4	20			47		3		177	1	9		4	54	1		2568
青森			3																							9					12
静岡			2		37								1				15						8					4			67
石垣							ļ																		1						1
仙台			5		4		_										6						1			37					53
大分			1				<u> </u>			11																		6	-		18
中部		36	60	1	165				50	2			19		1	2			25					2	1	1	7	10			473
長崎			1								3						1											2			7
那覇		2	5		26			10		1						3	24	_	_	1	1							6			79
函館	80	ᄩ	上海道	i –	1		<u> </u>									70	3				13										168
富山					1		<u> </u>		1				15				2		1				3								23
福岡		2	25		36	6	<u> </u>	13	3	14	16					4	51	<u> </u>	10			15	7	6	1	3					212
米子			1				<u> </u>											<u> </u>	-					<u> </u>					$\vdash \vdash$		1
北九州																															0
総計	173	161	1219	15	2363	120	0 (68	126	39	164	0	63	9	45	155	2412	9	600	1	48	45	541	14	30	495	14	224	30	0	9183



トリップチェーン分析の対象

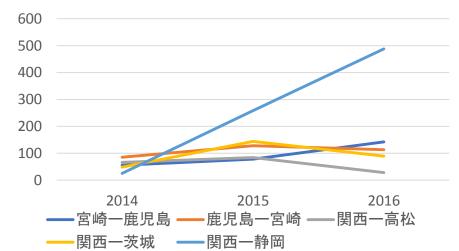
北海道内

In	Out	2014	2015	2016
新千歳	旭川	81	82	93
利丁威	函館	70	256	340
函館	旭川	160	118	80
四時	新千歳	12	70	70
48 III	新千歳	9	33	14
旭川	函館	188	180	98



サンプル数50を超えるルート

In	Out	2014	2015	2016
宮崎	鹿児島	55	78	142
鹿児島	宮崎	85	128	113
	高松	66	84	28
関西	茨城	48	144	89
	静岡	25	258	488





旭川-函館

	ID No.	北海道	訪問地	トリップ数
	2014年		1	5~6が多い
		Nati	onality	
200				
100				
O	マレーシア	台湾	中国	米国
		2 014	2015 2016	

函館-旭川

ID No.	北海道	訪問地	トリップ数
2014年	•	1	5~6が多い
	Na	ationality	
200			
100			
0 —	台湾		中国
	■ 2014	2015 ■ 2016	

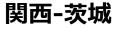
宮崎-鹿児島

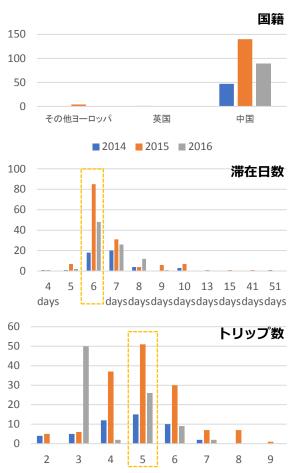
	ID No.	宮崎県	: 鹿児島	場 訪問	引地	トリップ数
	2014年	•	•	2	2	5~6が多い
			Nation	nality		
100						
50						
0						
	韓国	L.	香港	台湾		中国
			■ 2014 ■ 20	15 ■ 2016		

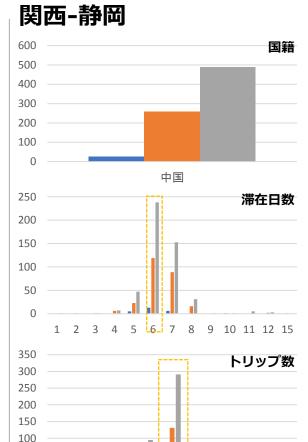
鹿児島-宮崎

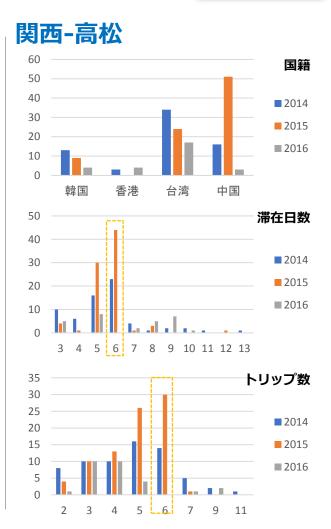














関西-高松

高松空港の利用状況

- 国内・国際線定期路線の利用者数:過去最高の1,953,265人(2017年, 5.3%増, 4年連続)
- 国際定期路線の利用者数: 279,420人(2017年, 22.9%増, 7年連続)

ソウル線(エアソウル)

- 日本人・韓国人ともに利用者が増加
- 韓国人団体旅行客が好調
- 利用率66.9%(1.8ポイント増)

台北線(チャイナ エアライン)

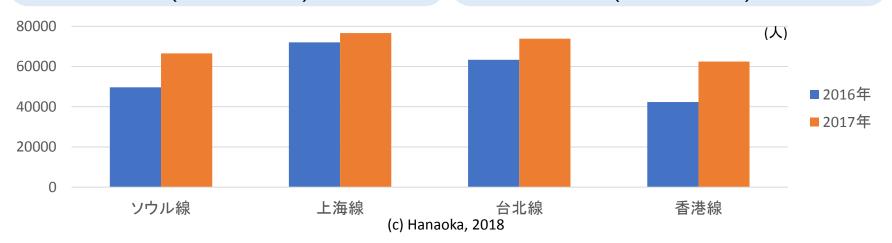
- 2017年6月:「2017日台観光サミット in 四国」が開催
- 通年で週6往復での運航
- 利用率74.5%(3.4ポイント増)

上海線(春秋航空)

- 昨年1月の週4往復→週5往復への増便
- 日本人団体旅行客や中国人個人旅行客が増加
- 利用率82.0%(8.5ポイント減)

香港線(香港エクスプレス)

- 通年運航(平成28年7月6日就航)
- ・ 平成29年7月からは国内旅行会社での取扱い が可能
- 利用率85.0%(2.0ポイント増)

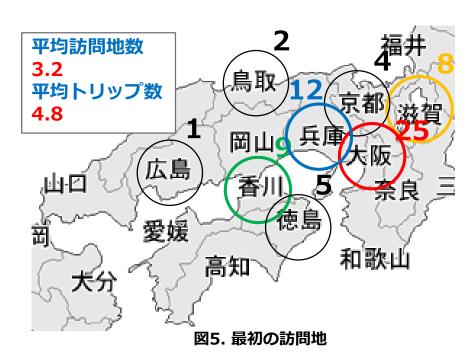


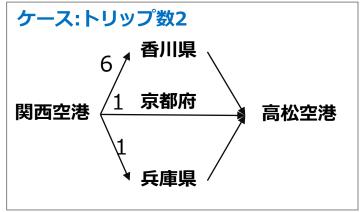


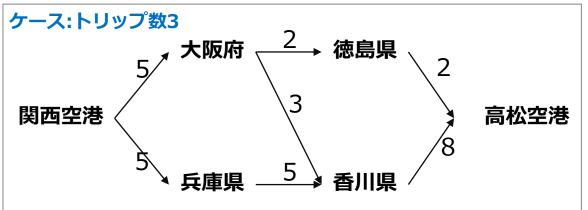
関西-高松: トリップチェーンの分析 (66サンプル・2014年)

表4. トリップ数と滞在日数の関係 (2014年)

				/ XX C	- 7 - 1			(– ,			
	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	13日	総計
2	1	1	4	2							8
3	7				3						10
4	2	4	2	2							10
5			3	10	1	1		1			16
6		1	5	5			2	1			14
7				4					1		5
9			2								2
11										1	1
総計	10	6	16	23	4	1	2	2	1	1	66





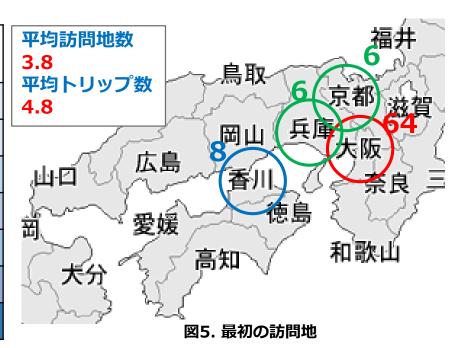


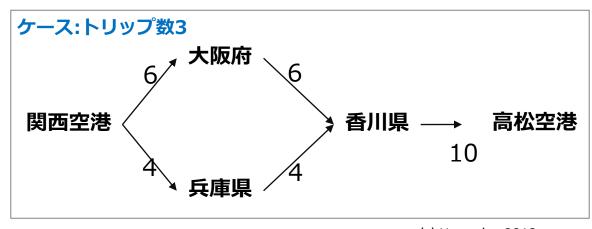


関西-高松: トリップチェーンの分析 (84サンプル・2015年)

表5 トリップ数と滞在日数の関係 (2015年)

	3日	4日	5日	6日	7日	8日	12日	総計
2	2	1			1			4
3	2		6	1		1		10
4			12	1				13
5			12	12		2		26
6				29			1	30
7				1				1
総計	4	1	30	44	1	3	1	84





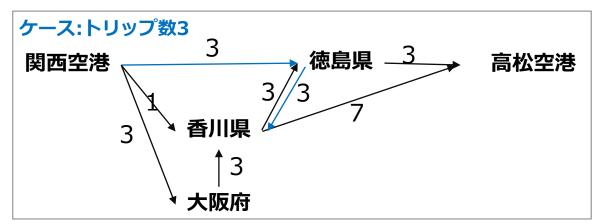


関西-高松: トリップチェーンの分析 (28サンプル・2016年)

表6 トリップ数と滞在日数の関係 (2016年)

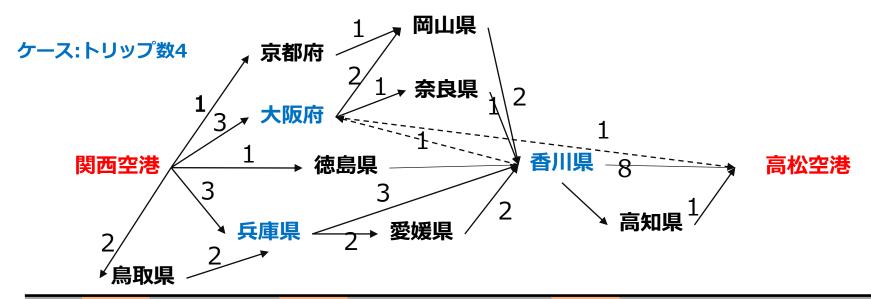
	3日	5日	7日	8日	9日	10日	総計
2	1						1
3	4	6					10
4				2	7	1	10
5		1	1	2			4
7				1			1
9		1	1				2
総計	5	8	2	5	7	1	28







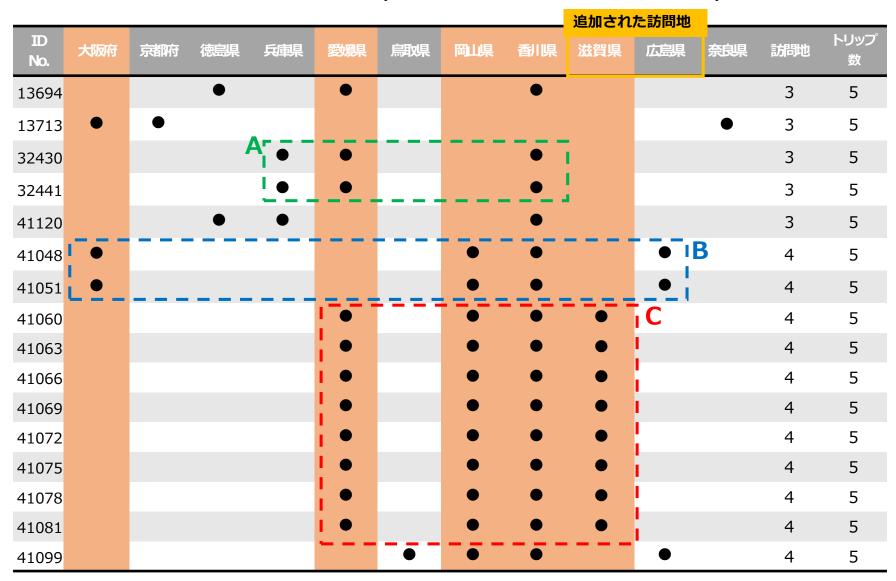
関西-高松: トリップチェーンの分析 (ケース: トリップ数4・2014年)



ID No.	大阪府	京都府	徳県	兵轉	愛農	鳥類県	岡山県	香川県	奈良県	部県	訪問地	トリップ数
32167	/_ • _						•	<u> </u>			3	4
32180	∟ • _						_ • _	_ • _			3	4
32284			В	•	•			•			3	4
32408				_ •	•			_ • _'			3	4
32419				•				•		•	3	4
33479	•						•	•			3	4
39858	•		•					•			3	4
40459			C	,- - -							3	4
40471				•		•					3	4
41057	•							•	•		3	4

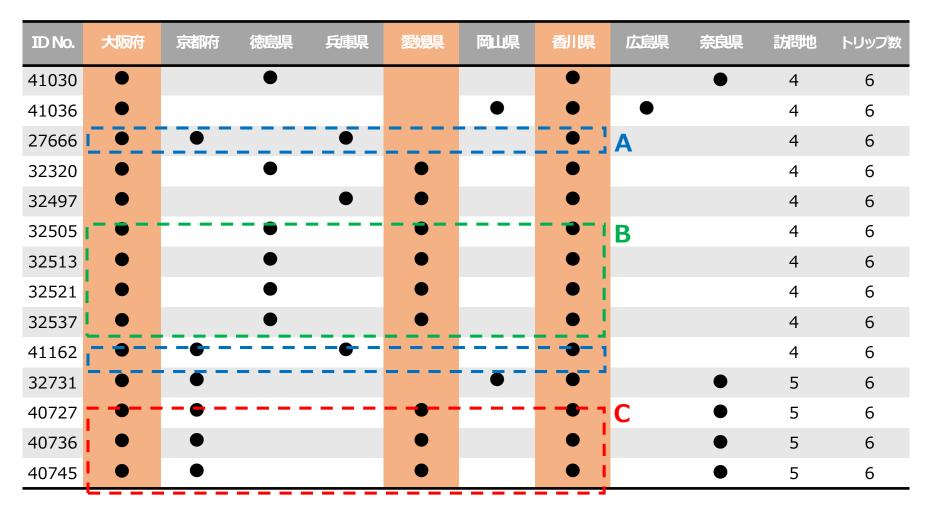


関西-高松:トリップチェーンの分析 (ケース:トリップ数5・2014年)



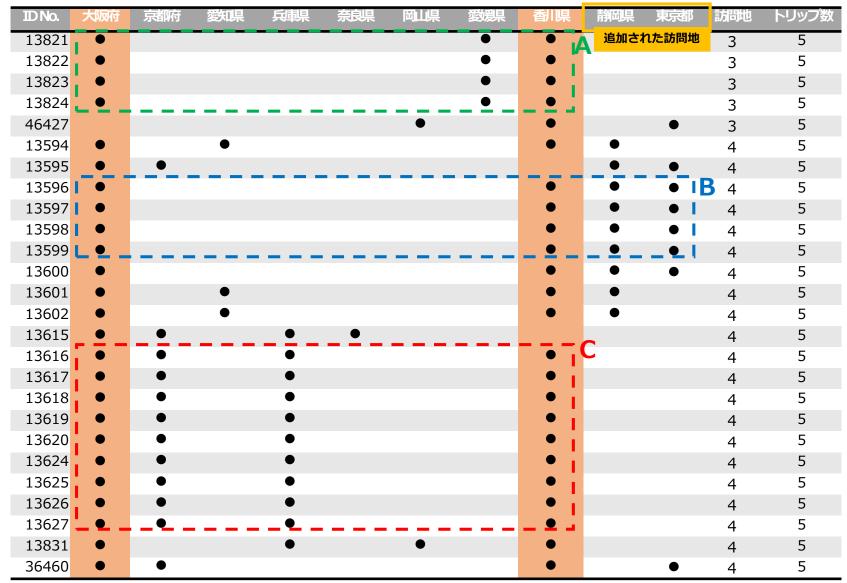


関西-高松: トリップチェーンの分析 (ケース: トリップ数6・2014年)



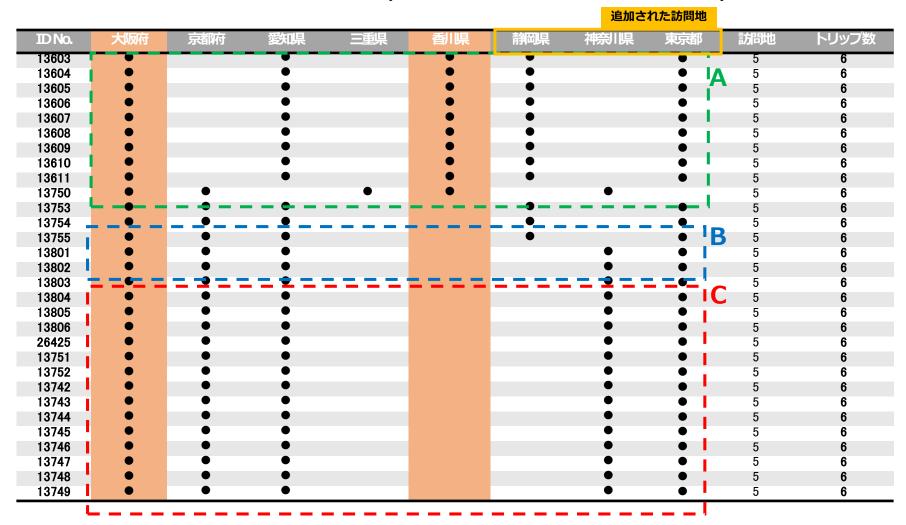


関西-高松:トリップチェーンの分析(ケース:トリップ数5・2015年)





関西-高松: トリップチェーンの分析 (ケース: トリップ数6・2015年)





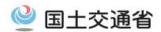
まとめ

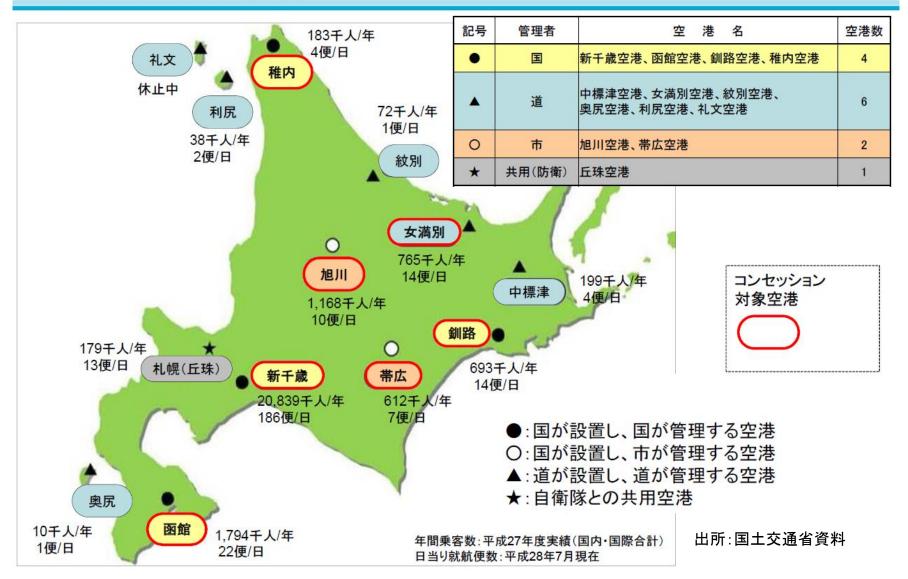
- 1. 最もサンプル数が多いのは成田 関西/関西 成田。サンプル数の多い主要空港間の組み合わせを見ると、ゴールデンルートで異なる出入国空港を選択。
- 2. 首都圏 2 空港を出入国空港として別々に利用する訪日外国人も増加。
- 3. 関西一高松ルートは,大阪府と香川県を中心として,2014年は兵庫県・愛媛 県の訪問が多い。2015年は京都府・静岡県・東京都の訪問が多い。
- 4. 入国・出国のどちらかで訪日外国人が地方空港を利用するケース:
 - ①日本国内を東西に移動するゴールデンルートの始点あるいは終点 として地方空港を選択肢。同一航空会社による同一方面の路線が 就航している主要空港と地方空港を組み合わせたツアー等が有効。
 - ②北海道のように一つの地域内で完結する観光ルートを団体旅行として ツアー化。中国,韓国,台湾,タイなどを対象にした現地発ツアー形成。



北海道7空港一括運営委託の状況

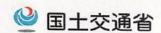
北海道内の空港の概要



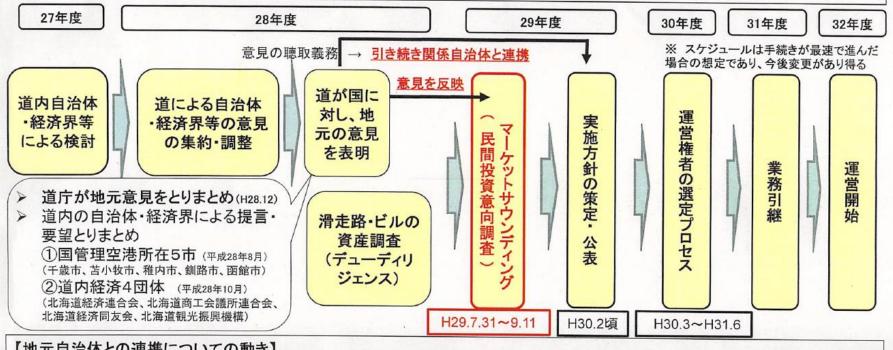




北海道内7空港の運営委託に向けた取組状況



- 道内7空港の一括運営に向けて、地元関係者との連携を重視し、平成27年度より約2年間かけて検討を重ねてきた。
- ○7月31日に開始したマーケットサウンディングでの民間事業者の声を反映させたうえで、年度内に実施方針の策定・公表を行う 予定。



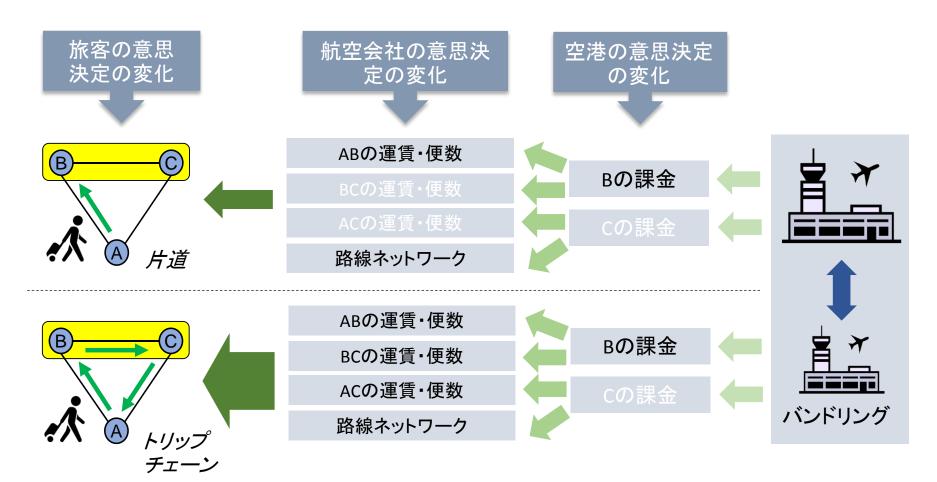
【地元自治体との連携についての動き】

- ① 平成29年1~5月 対象7空港各地元でシンポジウム開催(各回約300~600名が参加) 旭川(1/25~26) 釧路(2/27~28) 稚内(3/22~23) 函館(3/28~29) 帯広(4/18~19)女満別(5/10~11) 新千歳(5/16~17)
- ② 平成29年7月 空港経営改革協議会(空港所在自治体(10市町)で構成)の開催
 - : 平成28年5月の立ち上げ以降、5回にわたって開催されており、これまでも空港所在自治体の意見を聴取
 - : 7月31日開催の第6回協議会での了承をもって、マーケットサウンディングを開始 (~9月11日まで)

関係自治体の意見を取り入れつつ、平成32年度の運営委託開始に遅れることのないようMSを実施



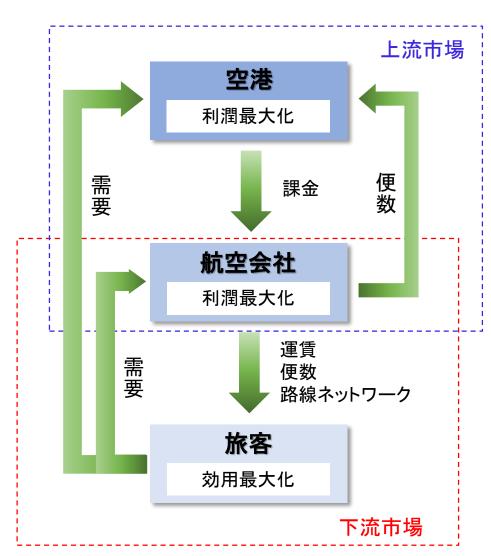
バンドリングとトリップチェーン



- 片道旅客よりトリップチェーン旅客の行動がバンドリングに大きく影響。
- 北海道は複数の観光地を訪ねる観光客が総旅客数に占める割合が比較的高い。



航空市場構造



仮定

空港

公営空港の課金は最小限の経営が保証できるレベルに政府が定める。

航空会社

- 複数の航空会社がある。
- 航空会社が任意に路線ネットワーク、便数および運賃を設定する。

旅客

- 片道旅客とトリップチェーン旅客。
- ・ 出発地から目的地までの距離が近い場合、陸上交通を選択できる。
- 旅客は常にリンク数が最小の路線を選択する。

Saraswati and Hanaoka (2014)



モデルの枠組み

入力パラメータ								
旅客	潜在需要数, 旅	潜在需要数,旅客の金銭及び時間に対する感度関数,ログサムパラメータ						
航空会社	営業費、航空機	幾の特性パラメータ						
空港	営業費、一人当	当たりの非航空系利潤						
- スの供	空路と陸路の特性パラメータ, ロジットモデルに関するパラメータ, 各観光地の魅							
その他	力度, OD							
変数	目標関数	トリップチェーン生成問題						
需要 x	航空会社の	$V_r = \sum_i \sum_j (C \circ S_r)_{i,j}$ where $C_{i,j,k} = f(P_{i,j,k}, F_{i,j,k})$						
_	payoff π	最適化問題						
運賃 p	(利潤)	空港						
_		$\max_{\mathbf{T}} \gamma(\mathbf{T}, F_k, \mathbf{x}(V_r(P_k, F_k)))$						
便数 f	空港のpayoff	Where $P_k = [\mathbf{p}_h; \mathbf{p}_{-h}]$ $F_k = [\mathbf{f}_h; \mathbf{f}_{-h}]$						
	γ (±1:38 ** 1 > 1 *	<u>航空会社</u>						
課金 T	(利潤或いは 社会的余剰)	$\mathbf{p}_h, \mathbf{f}_h = \arg \max_{\mathbf{p}_h, \mathbf{f}_h} \pi_h(\mathbf{p}_h, \mathbf{f}_h, \mathbf{x}_h(\mathbf{p}_h, \mathbf{f}_h, \mathbf{p}_{-h}, \mathbf{f}_{-h}), \mathbf{T}) \forall h \in H$						

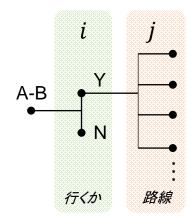
出力

決定変数の最適解: 需要、運賃、便数、課金(空港使用料)、航空会社の利潤、空港の利潤、消費 者余剰、社会的余剰



片道旅客の需要関数

例えば、ODがABの場合 選択肢は右図。



- 1. 航空会社Iの直行便
- ◆ 2. 航空会社Iの乗り継ぎ便
- 3. 航空会社Jの直行便
 - 4. 航空会社Jの乗り継ぎ便 ...

各ODにおける各路線jの効用の決定項は以下のように定式化

$$V_{OD_j} = -\theta_1 \left(p_{OD_j} + \alpha_1 t_{OD_j} + \alpha_2 (dl_{OD_j} + ly_{OD_j}) \right)$$
 運賃 旅行時間 遅延時間 Where
$$p_{OD_j} = \sum_h \sum_\rho p_{h\rho} \delta_{h\rho OD_j} \quad t_{OD_j} = \sum_h \sum_\rho t_{h\rho} \delta_{h\rho OD_j}$$

$$dl_{OD_j} = \sum_h \sum_\rho dl_{h\rho} \delta_{h\rho OD_j} \quad dl_{h\rho} = \delta_{\rho c} \sum_l dl_{hl} \delta_{l\rho} \quad dl_{hl} = Ti/4 f_{hl}$$
 便数

Nested-logitの式を用いて各路線jの需要を定式化

$$N_{OD_j} = N_{OD_Y} \times \frac{\exp(\frac{1}{\mu} \times V_{OD_j})}{\sum_{j^* \in J} \exp(\frac{1}{\mu} \times V_{OD_j^*})} \qquad \text{Where} \qquad N_{OD_Y} = N_{OD} \times \exp(\Gamma_{OD_Y})$$

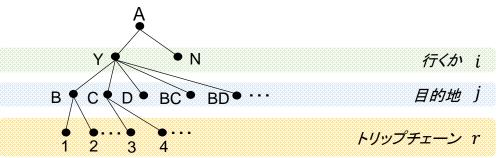
$$\Gamma_{OD_Y} = \mu \ln(\sum_{j^* \in J} \exp(\frac{1}{\mu} \times V_{OD_j^*}))$$

Li et al. (2009)



トリップチェーン旅客の需要関数

各選択肢(トリップチェーン)の 需要はnested-logit式より算 出。



各トリップチェーンrの効用の決定項を定式化

$$\begin{split} V_r &= -\theta_2 \big(p_r + \alpha_1 t_r + \alpha_2 (dl_r + ly_r) \big) \\ \text{Where} \\ p_r &= \sum_h \sum_\rho p_{h\rho} \delta_{h\rho r} + \sum_d p_d \delta_{dr} \\ t_r &= \sum_h \sum_\rho t_{h\rho} \delta_{h\rho r} + \sum_d t_d \delta_{dr} \\ dl_r &= \sum_h \sum_\rho dl_{h\rho} \delta_{h\rho r} \quad dl_{h\rho} = \delta_{\rho c} \sum_l dl_{hl} \delta_{l\rho} \end{split}$$

各トリップチェーンrの需要を定式化

$$N_{r} = N \frac{\exp(\Gamma_{i})}{1 + \exp(\Gamma_{i})} \frac{\exp(\Gamma_{j})}{\sum_{j^{*} \in J} \exp(\Gamma_{j^{*}})} \frac{\exp(\frac{1}{\mu_{j}} V_{r})}{\sum_{r^{*} \in R} \exp(\frac{1}{\mu_{j}} V_{r^{*}})}$$
Where
$$\Gamma_{j} = \frac{\mu_{j}}{\mu_{i}} ln(\sum_{r^{*} \in R} \exp(\frac{1}{\mu_{j}} V_{r^{*}})) + \frac{1}{\mu_{i}} At_{j}$$

$$\Gamma_{i} = \mu_{i} ln(\sum_{j^{*} \in J} \exp(\Gamma_{j}))$$

各航空路の総 需要

$$x_{h\rho} = \sum_{OD} \sum_{i} N_{OD_j} \delta_{ODjh\rho} + \sum_{r} N_r \delta_{rh\rho}$$

航空会社hの航空路 ρ がODの路線jの一部/トリップチェーンrの一部であるとき、 $\delta_{ODjh\rho}$ or $\delta_{rh\rho}$ は1を取る、それ以外なら0を取る。



目的関数

航空会社の利潤 空港の 課金
$$\pi_h = |\mathbf{p}_h \cdot \mathbf{x}_h| - |2c_h \mathbf{f}_h \cdot (D\mathbf{s}_h)| - |\mathbf{f}_h \cdot \mathbf{T}_h|$$
 $\forall h \in H$ $T_{h(l)} = \sum_a T_a w g_{h(l)} \delta_{hla}$ $\forall l \in L$ 最適化 $\mathbf{g}_h = \mathbf{g}_h \cdot \mathbf{g}_h$

空港の利潤 非航空系の 利潤
$$\gamma_a = \mathbf{f}_a \cdot (T_{(a)} \mathbf{w} \mathbf{g}_a - \mathbf{c}_a) + p t_a y_a$$
 $y_a = \sum_h \sum_\rho x_{h\rho} \delta_{h\rho a} \quad \forall \, a \in A$ 航空系の利潤 \mathbf{g} 最適化 \mathbf{g} \mathbf

$$y_a = \sum_h \sum_{\rho} x_{h\rho} \delta_{h\rho a} \quad \forall \ a \in A$$

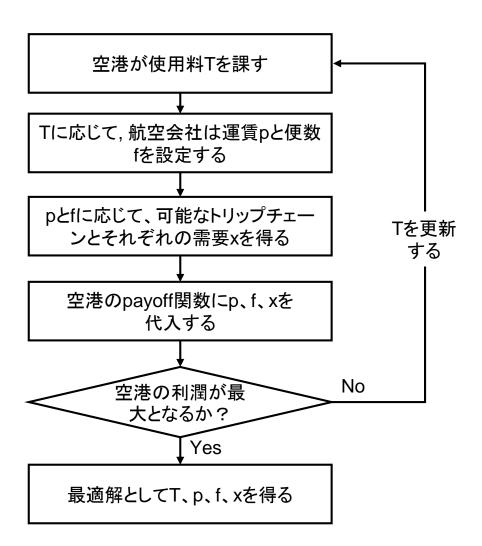
社会的余剰

消費者余剰

$$SS = \sum_{h} \pi_{h} + \sum_{a} \gamma_{a} + \begin{bmatrix} CS \\ CS \end{bmatrix} \qquad CS = \sum_{OD} \left(\int_{-(\Gamma_{OD}\underline{Y}/\theta_{1})}^{\infty} N_{OD} \exp(-\theta_{1}z) \, dz \right) + \int_{-(\Gamma_{i}/\theta_{2})}^{\infty} N \frac{\exp(-\theta_{2}z)}{1 + \exp(-\theta_{2}z)} \, dz$$
最適化
$$\max_{\mathbf{T}} SS(\mathbf{p}_{i}, \mathbf{f}_{i}, \mathbf{x}, \mathbf{T}) \qquad \text{s.t.} \sum_{a} \gamma_{a} \geq 0 \qquad \text{収支均衡制限}$$

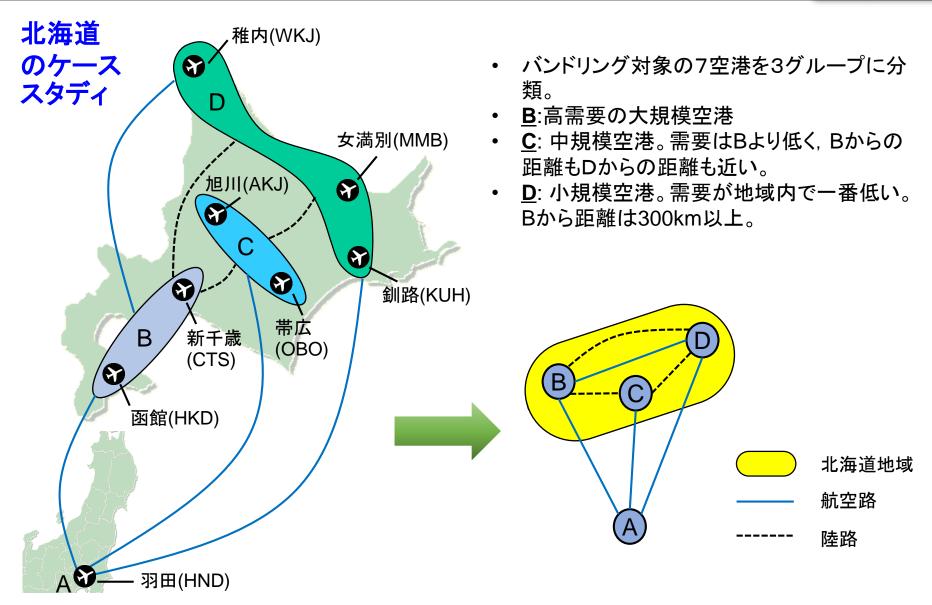


解法



- ヒューリスティックアプローチを用いて、上流の最適化問題と下流の最適化問題と下流の最適化問題を交互に解く。
- ラグランジュの未定乗数とペナル ティパラメータを用いて、非線形の 制約条件を目的関数にする。
- 航空会社層における非協力ゲーム はdiagonalization法で解く。



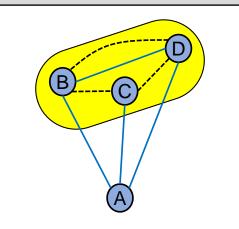




計算条件とケース

条件

- 四つの空港がある、Aは公営の空港。他の三つの空港がバンドリング対象。
- 類似するマーケットパワーを有する二つの航空会社がある。
- 各ODペアに潜在需要がある。
- すべてのトリップチェーン需要はAから生成する。トリップチェーン旅客は一つか複数の道内の目的地を訪ねる。



ケース

ケース 1 (バンドリング実施前) 政府が定めた一様課金 (空港の利潤ゼロ)

ケース 2 (バンドリング実施後) 空港の利潤最大化課金 ケース 3 (バンドリング実施後) ラムゼー価格設定課金 (収支均衡下で 社会的余剰最大化)

サブケース: 潜在トリップチェーン需要の比率								
10%	20%	30%	40%	50%				

(c) Hanaoka, 2018 35



航空路	一日当たり の潜在需 要 ^{1,2}	航空路の 距離(km)³	飛行時間 (min) ⁴	最大着陸重量 (ton) ⁴	座席数4
A = B	20000	890	90	200	375
A = C	2000	1000	100	134	261
A = D	1500	1150	105	68	165
B = D	1000	350	50	35/29	76/74

離陸	旅行費用 (\$) ⁵	旅行時 間 (min) ⁵
B_D	60	340
B_C	20	120
C_D	50	220

パラメータ	値	引用			
コストに対する感度(片道)	0.0025	N/A			
コストに対する感度(トリップチェーン)	0.003	N/A			
時間価値(非業務/空)	0.56 (\$/min)	国土杰通少道改具(2008)			
時間価値(非業務/陸)	0.37 (\$/min)	国土交通省道路局(2008)			
時間価値(業務/空)	0.67 (\$/min)	国土交通省航空局(2006)			
スケジュール遅れ/旅行時間	1.3	Hsu and Wen (2003)			
魅力度 (B)	0.3				
魅力度 (C)	0.15	Brand Research Institute (2017)			
魅力度 (D)	0.1				
Log-sumパラメータ (μ_j)	0.7	N/A			
Log-sumパラメータ (μ_i)	0.9	N/A			
Log-sumパラメータ(μ)	0.7	N/A			
航空会社の営業費	0.09 (\$/km*seats)	ANAとJALのIR情報			
空港の営業費	16 (\$/tonne)	ゼロ利潤仮定に基づいて公営空港の着陸料から推算する			
一人当たりの非航空系利潤	10 (\$/person)	N/A			



計算結果①

最適課金

T(X) = 空港Xの課金 (\$/tonne)

*: 16は予め決められた公営空港の課金。外生的なパラメータ。

**: 100は設定した最適化の変数上限

トリップチェー ンの割合	ケース1 (バンドリング前)				ケース2 空港利潤最大 (バンドリング後)				ケース3 社会的余剰最大 (バンドリング後)			
2 02111	T(B)	T(C)	T(D)		T(B)	T(C)	T(D)		T(B)	T(C)	T(D)	
10%	16*	16	16		100**	100	100		1.8	23.4	0.8	
20%	16	16	16		100	100	100		15.8	16	1.9	
30%	16	16	16		100	100	100		25.1	17.9	16	
40%	16	16	16		100	100	100		47.2	5	13.1	
50%	16	16	16		100	100	100		48.7	9.5	12.6	

上限がない場合、バンドリング後の空港運営者は非 現実的な課金を設定する。 社会的余剰最大化の場合、トリップ チェーンの割合が低いときに最適課金 は低くなる傾向にある。課金設定に関す る空港間の協調がみられる。



計算結果②

トリップ		į	需要(人数	<u>)</u>		複数目的地訪問需要(人数)					
チェーン	C1	C2	変化率	C 3	変化率	C1	C2	変化率	C3	変化率	
10%	13222	13074	-1.1%	13341	+0.9%	633	607	-4.2%	651	+2.7%	
20%	13302	13131	-1.3%	13458	+1.2%	1286	1243	-3.4%	1327	+3.2%	
30%	12978	12666	-2.4%	13437	+3.5%	1833	1747	-4.7%	1975	+7.7%	
40%	12413	12033	-3.1%	13036	+5.0%	2225	2134	-4.1%	2514	+13.0%	
50%	12551	12337	-1.7%	12923	+3.0%	2894	2843	-1.8%	3071	+6.1%	

トリップ		<u>空港利潤</u> (Million \$)		航空会社利潤(Million \$) 消費者余剰(Mil					llion \$)				
チェーン	C1	C2	C 3	C1	C2	変化率	C3	変化率	C1	C2	変化率	С3	変化率
10%	0	0.89	0.19	6.54	5.92	-9.4%	6.60	+0.9%	10.08	9.99	-0.9%	10.17	+0.9%
20%	0	0.91	0.27	6.32	5.71	-9.7%	6.29	-0.6%	9.80	9.68	-1.2%	9.92	+1.2%
30%	0	0.91	0.34	6.19	5.57	-9.9%	6.01	-2.9%	9.22	9.01	-2.3%	9.56	+3.7%
40%	0	0.89	0.44	6.05	5.45	-9.8%	5.81	-4.0%	8.50	8.23	-3.1%	8.90	+4.8%
50%	0	0.92	0.44	5.82	5.14	-11.6%	5.60	-3.8%	8.24	8.09	-1.9%	8.50	+3.2%



-1	. 在	4±		
ĀΤ	异	不口	禾'	3

トリップチェー	社会的余剰 (Million \$)								
ン	ケース1	ケース2	変化率	ケース3	変化率				
10%	16.90	16.81	-0.6%	16.96	+0.4%				
20%	16.40	16.31	-0.6%	16.48	+0.5%				
30%	15.68	15.49	-1.2%	15.91	+1.5%				
40%	14.81	14.58	-1.6%	15.15	+2.3%				
50%	14.32	14.15	-1.2%	14.54	+1.5%				

まとめ

- 空港利潤最大化(ケース2)のときの高い空港課金は、旅客需要、消費者余剰、社会的余剰の低下をもたらす。
- 社会的余剰最大化(ケース3)のとき, バンドリング前の場合(ケース1)と比較して, 空港間の課金額の協調により, 需要増加, 消費者余剰, 社会的余剰の改善がみられる。複数目的地の訪問需要も増加。
- 現在のアルゴリズムはStackelberg-Nash問題の大域的最適解が必ずしも得られない。また非航空系利潤が課金額に係わらず一定のため、民営化の効果を適切にモデル化できていない。

4.訪日外国人による消費特性の入国空港別国籍別比較分析



訪日外国人による国内消費支出特性を分析

新千歳,中部,福岡,那覇の各空港を対象に,中国,韓国,台湾,香港の国籍別入国空港別消費特性の比較分析

方法

訪日外国人消費動向調査集計表

入国空港別/国·地域籍別/支出費目別「購入率」×

国・地域籍別/支出費目別「平均単価」

= ①国・地域籍別/入国空港別/支出費目別「平均単価」

出入国管理統計

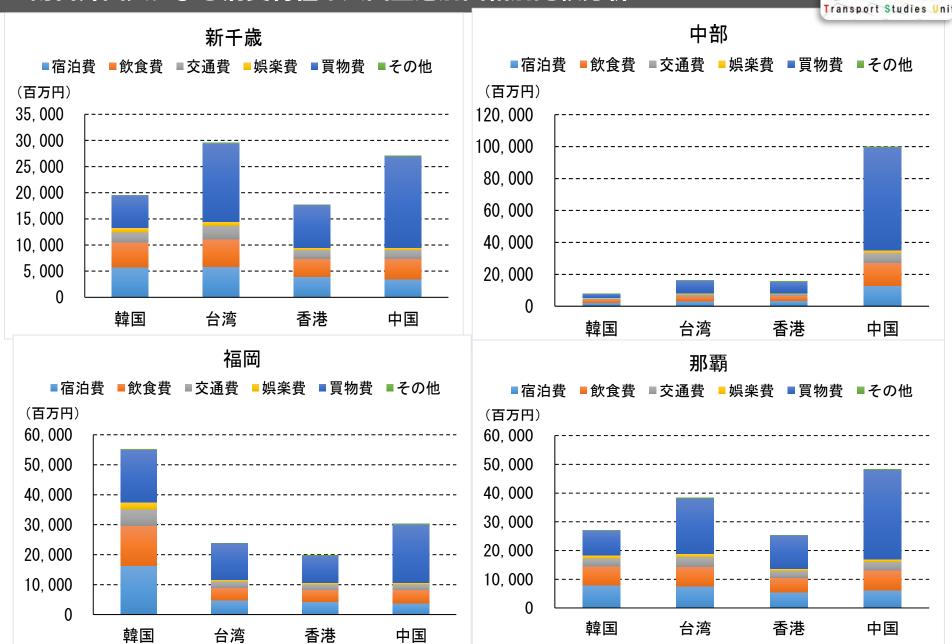
②国・地域籍別/入国空港別外国人実数

- ①と②を乗じて
- ③国・地域籍別/入国空港別「項目別支出額」を算出。

注:支出項目:宿泊料金,交通費,飲食費,娯楽費,買物代,その他

4.訪日外国人による消費特性の入国空港別国籍別比較分析





4.訪日外国人による消費特性の入国空港別国籍別比較分析



まとめ

- 新千歳空港では、台湾と中国からの旅客による消費額が大きく、これらの国地域の旅客の消費傾向を反映し、買物費としての消費支出額の割合が大きい。
- 中部空港では、中国旅客の量が多いためその消費額も突出しており、 その結果、買物費消費額が極めて大きい。
- 福岡空港における項目別消費額の割合は、買物費に対する飲食費と宿 泊費への支出割合が高い韓国人旅客が多いことにより、他空港に比べ て買物費消費額の規模が小さい。
- 那覇空港の消費額特性は、新千歳空港の特性と類似している。